

水の保全で協力 「世界モデルに」

大野市仏の行政組織とあす覚書



水環境整備事業の協力を誓う仏国アグド市のデトル市長(左)と岡田市長＝13日、大野市役所

海外の水道整備を支援している大野市は15日、水事業を展開するフランスの広域行政組織「エロ

1・地中海都市圏共同所を訪れ、岡田高大市長と懇談した。

大野市は、自然が育む水の恩恵を受ける「恩返し」として2016年度から日本ユニセフ協会(東京)を通して東ティモールの水道整備を支援している。

大野市は、自然が育む水の恩恵を受ける「恩返し」として2016年度から日本ユニセフ協会(東京)を通して東ティモールの水道整備を支援している。

大野市は、自然が育む水の恩恵を受ける「恩返し」として2016年度から日本ユニセフ協会(東京)を通して東ティモールの水道整備を支援している。

今後の事業の広がりを見据えて昨年11月、今洋佑副市長ら3人が水事業の先進地フランスを訪問。国境を越えて今後の水事業の在り方を模索した。デトル市長らは大野の取り組みについて「国際的に連携して他国を支援する点や、水保全への意識を向上させる方法がすごく面白い」と評価。水資源を守る大切さを訴え「共同体と大野が協力し」世界のモデルになれるよう願っている」と述べた。

岡田市長は「将来の地球の水環境を考えると、かけになることを願う。一緒に、水問題に向かう活動や助け合い運動を広げて行けたら」と話した。覚書は、仏日両政府間で15年に締結した「低炭素で環境に優しい社会を築く」を初めて。構築するための二国間連携に関する協力覚書に基づいて結ぶ。市によると同年以降、同国との協力関係を築くのは国内で初めて。(栗原愛)